

千葉県立博物館の事業に係る自己評価票（令和4年度事業）

達成度（数値達成度のめやす）		自己評価	総合評価
達成	目標値≧100%	4	A
ほぼ達成	目標値≧80%	3	B
やや不十分	目標値≧50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≧75%	4
ほぼ達成	達成値≧65%	3
やや不十分	達成値≧50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値 下段：目標値	値の説明	数値				
I	収蔵資料の整理・保存 有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等	令和4年度実績	20,581件	4	A	年間の登録点数。購入、寄贈、館員収集、保管換、新規寄託など。
					前年度実績	14,615件			
		2	資料の情報化・公開実績	令和4年度実績	40,492件	4	情報システム登録点数（年間増加）		
				前年度実績	37,580件				
		3	館外貸出（外部機関等展示等）	令和4年度実績	14件	3	B	館外貸出（分館への貸出含む）	
				前年度実績	15件				
		4	館内利用（学術調査等）	令和4年度実績	193,653	3		GBIF、GISでのデータ活用、研究用貸出	
				前年度実績	204,316				
5	著作物資料への利用（出版物掲載等）	令和4年度実績	57件	2	出版物、放送（撮影、デジタル情報の利用）の全ての件数				
		前年度実績	73件						
調査研究	6	調査事業件数	件数	令和4年度実績	82件	3	A	地域研究課題＋普遍研究課題	
				前年度実績	98件				
	7	共同調査事業件数	件数	令和4年度実績	18件	4		科研分担＋他機関と共同研究の件数	
前年度実績				17件					
8	研究成果の公開状況	論文研究報告	令和4年度実績	81件	4	学術論文・学術書の本数			
			前年度実績	74件					
大項目Iの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	<ul style="list-style-type: none"> ●(項目1～2)：新型コロナの影響が少なくなり、野外調査が行われ始めたことで標本採集点数が増えた。 ●(項目4～6)：前年度は利用数が多かったが、今年度もそれに近い水準を保っている。 								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値 下段：目標値		値の説明	数値				
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	令和4年度実績	105,087人	4	コロナ規制が緩和され、入館者数が増えた。 ●季節展：春の展示「苔松苔梅」、秋の展示「おはまおリー海へ向かう神々の祭」、春の展示「ちばの植物 探・検・隊！」 ●生態園トビックス展「カエル」、「第11回生態園ギャラリー」、「生態園の意外な動物たち」 ●トビックス展「五百沢智也氏が描いた房総の風景」、「こんなに変わった植物の分類—DNAをもとにした新たな系統—」、「令和3年度生命のにぎわい写真展」、「令和4年度生命のにぎわい写真展」 ●ミニトビックス展「オオガハス」、「習志野隕石」、「十二支にちなんで—卯年—」 ●その他の展示「柏北部東地区の遺跡展 地中からの目覚め」 これらの展示期間中の入館者数は62,290人	
						前年度実績	97,033人			
			2	特別展「鯨」	入館者数	令和4年度実績	25,475人	4		
						前年度実績	10,564人			
			3	トビックス展等	入館者数	令和4年度実績	87,949人	4		
						前年度実績	37,848人			
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	令和4年度実績	21回	1		更新回数は減ったものの、分類展示室のクジラ標本、貝類標本の追加、オリエンテーションハウスの生態園観察ノート閲覧コーナー新設など、県民へわかりやすく伝えるように努力した。 季節展、トビックス展、生態園トビックス展、ミニトビックス展、出張展示等
						前年度実績	43回			
			5	特別展「鯨」	実施回数	令和4年度実績	1回	4		
						前年度実績	1回			
6	トビックス展等		実施回数	令和4年度実績	20回	3				
				前年度実績	23回					
総合的な満足度	7	常設展示	アンケート満足度「非常に満足」+「満足」の割合	令和4年度実績			A			
	8	特別展「鯨」		令和4年度実績	96%	4				
	9	トビックス展等		令和4年度実績						
大項目IIの総合評価（A～D）							A			
博物館コメント	●（項目1～3）：前年度に比べ、いずれの展示も大幅に入館者数が増えたのは、新型コロナウイルスの影響が薄れたためと思われる。 ●（項目8）：アンケート結果によると、この展示で初めて来館したという人の割合が高く、クジラの骨格標本やシャチの迫力、ミニチュア模型の精巧さや生物と文化の両面からクジラを紹介していたことなどが特に好評であった。									
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	令和4年度実績	145%	4	達成率＝実績額÷収入見込額（予算書）×100 A	
						前年度実績	111%			
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	令和4年度実績	32件	4		
						前年度実績	29件			
大項目IIIの総合評価（A～D）							A			
博物館コメント	●（項目1）：新型コロナウイルスによる規制緩和に伴い入館者が増えて達成率が上がった。 ●（項目2）：昨年度並みの実績を上げることができた。									

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段：達成値 下段：目標値		値の説明	数値			
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和4年度実績	516回	4	A
					前年度実績	510回			
			2	HPでの利用状況	アクセス数	令和4年度実績	222,804件	4	
					前年度実績	204,322件			
			3	報道機関への情報発信	取材件数	令和4年度実績	93件	3	
					前年度実績	111件			
大項目IVの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	<ul style="list-style-type: none"> ●（項目2）：新型コロナウイルスによる規制緩和により、利用者がウェブサイトからの情報を活発に利用するようになった。展示準備の様子などを積極的に配信するなどの工夫を行なった。 ●（項目3）：今後も新種掲載論文や共同研究による論文などを積極的に報道発表したい。 								
V	学校及び地域（関係団体）との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	令和4年度実績	126校	4	A
					前年度実績	69校			
			2	入館者数	令和4年度実績	4,584人	4		
					前年度実績	3,577人			
			3	生徒・児童	入館者数	令和4年度実績	18,515人	4	
					前年度実績	14,939人			
			4	博学連携（幼小中高への出前講座等）	学校数	令和4年度実績	20校	4	
					前年度実績	3校			
			5	利用者数	令和4年度実績	606人	4		
					前年度実績	72人			
		地域関係団体との連携	6	団体数	令和4年度実績	53団体	4		
					前年度実績	31団体			
			7	連携・共催（大学、NPO等）	利用回数	令和4年度実績	73回	4	
					前年度実績	44回			
8	利用者数		令和4年度実績	7,542人	4				
			館設定の目標	5,000人					
9	友の会活動	利用人数	令和4年度実績	208人	4				
		前年度実績	99人						
10	ボランティア活動	活動延人数	令和4年度実績	712人	4				
		前年度実績	337人						
大項目Vの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	<ul style="list-style-type: none"> ●（項目1～5）：団体に対して昼食場所の提供を再開したことに加えて、学校側の校外学習の再開に伴い、申込数が増加したことから、R3年度を超える実績となった。 ●（項目9～10）：新型コロナの対策を緩和したことにより、R3年度に足が遠のいていたサークル会員と、ボランティア登録者が活動を再開した。 								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考		
			上段：達成値 下段：目標値		値の説明	数値					
VI	教育・普及活動	来館状況	1	ミュージアムトーク	参加者数	令和4年度実績	717人	4	A	新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月～9月中旬は1日1回（11:00～11:30）実施。それ以降は1日2回実施。実施回数は令和3年度が30回、令和4年度は97回。	
						前年度実績	362人				
			2	講座・観覧会	参加者数	令和4年度実績	1,421人	4			令和4年度は7月以降感染対策を実施した上で例年通りの講座・観覧会を再開した。実施回数は令和3年度が32回、令和4年度は71回。
						前年度実績	356人				
			3	展示関連行事	参加者数	令和4年度実績	3,138人	4			令和4年度の増加は入館者数の増加および展示関連行事における制限緩和の影響と考えられる。実施回数は令和3年度が61回（※ワークシートの配布日数41日分を含む）、令和4年度は25回。
						前年度実績	1,865人				
			4	体験教室	参加者数	令和4年度実績	474人	2			令和3年度は接触なしで実施できるワークシートの配布枚数328枚分を体験イベントの参加者数に計上していた。令和4年度はコロナ感染対策の緩和に伴い、通常の体験イベントが再開され、ワークシート配布枚数を計上していないため、見かけ上参加者数が減少することとなった。
		前年度実績				759人					
		5	中央博調査隊・森の調査隊	参加者数	令和4年度実績	120人	4	令和4年度は森の調査隊を7月より再開した			
					前年度実績	0人					
		6	自然誌フェスタ	参加者数	令和4年度実績	996人	4	令和4年度より感染対策を講じた上で再開した。			
					前年度実績	0人					
		7	山のフィールドミュージアム（注：館外）	参加者数	令和4年度実績	196人	4	令和4年度より再開し、24日間開館した。			
					前年度実績	0人					
		総合的な満足度	講座	ミュージアムトーク 講座・観覧会 展示関連行事	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和4年度実績		アンケートは取っていない。			
令和4年度実績											
令和4年度実績											
令和4年度実績											
令和4年度実績											
令和4年度実績											
11	体験教室	体験イベント 中央博調査隊・森の調査隊	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和4年度実績							
				令和4年度実績							
13	自然誌フェスタ	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和4年度実績								
			令和4年度実績								
14	山のフィールドミュージアム	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和4年度実績								
			令和4年度実績								
15	相談件数（来館、メール、電話等）	利用件数	令和4年度実績	2,490件	3	B					
			前年度実績	3,072件							
大項目VIの総合評価（A～D）							A				
博物館コメント	<p>●項目（1～7、15）：規制緩和、感染防止対策の進展に伴い、実施できる事業の数、参加者共にR3年度より増加した（項目1～4、15）。項目4については、カウント方法の変更により、見かけの人数が減っている。また、R3年度に実施しなかった事業（項目5～7）も再開した。アンケートを取っていない項目8～14のうち、講座・観覧会については、コロナによる人数制限を撤廃しつつも、以前よりもゆとりのある人数・時間配分に設定したことから、個々の来館者に丁寧に対応することができ、参加者からおおむね好評をいただいた。自然誌フェスタについては、過密にならないよう会場を広げ、ブース間のスペースにゆとりを持たせたことから、来場者およびブース出店者にゆとりと過ごしていただけた。</p>										

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考					
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明				数値				
VII	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	令和4年度実績	14人	4	A	感染対策を施し、定員を増やした。				
					前年度実績	10人							
			2	教員等の研修	令和4年度実績	103人	4			館主催による教員のための博物館の日の研修を2件、教員研究制度研修を9件実施した。令和3年度よりも1件あたりの参加人数が多く、開催件数が1件多い。			
					前年度実績	26人							
			3	職場体験	令和4年度実績	43人	4		令和4年度は7月より職場体験の受け入れを再開した。				
					前年度実績	4人							
			4	インターンシップ	令和4年度実績	4人	4				R4年度より千葉県庁インターンシップの受け入れを再開した。		
					前年度実績	0人							
		安全管理	5	研修会の開催	実施回数	令和4年度実績	0回		4			A	
					前年度実績	0回							
			6	防災訓練実施等	実施回数	令和4年度実績	1回						
					前年度実績	1回							
大項目VIIの総合評価（A～D）						A							
博物館コメント	●項目（1～4）：職場体験の受け入れを本格的に再開し、大幅に人数が増えた。教員研修については、順調に受け入れ人数が回復した。県庁インターンシップについては、博物館側の受け入れ態勢が消極的で、4人とどまった。												
VIII	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	令和4年度実績	2団体	4	A	コロナ感染者数の減少に伴う海外旅行者の増加の影響と考えられる。				
					前年度実績	2団体							
			2	外国人来館入込	令和4年度実績	93人	4						
					前年度実績	38人							
大項目VIIIの総合評価（A～D）						A							
博物館コメント	新型コロナウイルス規制緩和の影響で増加傾向である												
IX	ICTの活用	ICTの活用	1	デジタルミュージアム等のコンテンツの作成・整備	制作数	令和4年度実績	5件	3	A	デジタルミュージアム4件、動画1件を作成・公開した。（昨年度と集計方法が異なるため、前年度実績の数字を11件→6件に修正した。）			
					前年度実績	6件							
			2	デジタルミュージアム等のコンテンツの利用状況	視聴数	令和4年度実績		4		個別データはとっていないが、当館ウェブサイト全体のアクセス数のみは増加している（項目IV-2）。			
					前年度実績								
			3	インターネットを活用したオンラインでの講座等の開催	開催回数	令和4年度実績	4回	4		オンラインとオンサイトのハイブリット形式で講座を4回開催。			
					前年度実績	4回							
			4	デジタル・デバイス解消のための対策	実施回数	令和4年度実績	11件	4		展示活動を、ウェブサイトで発信する他、印刷物（パンフレット等）（鯨展、おはまおり展等の展示関連）を作成した（11件）。			
					前年度実績	6件							
大項目IXの総合評価（A～D）						A							
博物館コメント	●項目（1）：デジタルミュージアム・シリーズの充実に加え、多くの講座動画コンテンツを作成・公開した。動画コンテンツは、リアルな講座を、場所・時間にとらわれず受講できる強みがあり、利用者には好評である。												

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値 下段：目標値	値の説明	数値				
X	その他	コロナウイルス感染症対策	1	職員の執務環境の整備	令和4年度実績	81人	4	A	対面座席間に遮蔽板を設置し、閉鎖的な執務室には、通常換気に加え送風機等を追加整備し、電話等の共用品は適宜消毒清掃を実施。 業務用出入り口を利用する全ての入館者に検温を実施した。 開館前に、出勤全職員によるアルコール/洗剤による消毒清掃を実施。 全ての入館者に、検温、マスク着用、手指消毒を求め、ほぼ全ての方が応じた。入館票の記入は4月29日より廃止した。一般利用者に対するマスク着用は3月13日から対策から除外した。
					全職員	79人			
			2	出勤職員・外来者の検温	令和4年度実績	365日	4	A	
					全出入り者	365日			
			3	展示室の消毒清掃	令和4年度実績	300日	4	A	
					開館日は毎日	300日			
			4	入館者の検温等	令和4年度実績	300日	4	A	
					開館日は毎日	300日			
大項目Xの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	●利用者・職員の安全確保のため、千葉県の指示並びに日本博物館協会が策定した「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」に従って、感染症対策を実施した（指示やガイドラインが改正された際には、感染症対策も順次見直しを行った）。								
総合評価（A～D） [各達成度の平均]							A		
総合評価と次年度への対策	●総合評価 ◇令和4年度は新型コロナウイルスの影響はあるものの、規制緩和に伴い博物館活動を実施できたため、どの分野においても実績数は回復しつつある。 ◇この回復のなかで、対面式の講座観察会が開催されはじめ、さらに従来にはなかった「動画」というウェブコンテンツが加わりはじめた（項目X）。このように、ポストコロナに対応した博物館活動に向けて積極的に取り組めた。 ◇また、令和4年度は、中央博が得意とする分野（新種記載論文等をはじめとする）のコンテンツを、より積極的に報道発表やTwitterで公表するようになり、その結果としてウェブサイトへのアクセス件数の増加などの波及効果があったと考えられる。 ●次年度への対策 ◇令和3年度から増加しはじめた講座等の動画配信は、様々な利用者にとって利便性が高く、新型コロナ収束後も、博物館活動の大きな柱となると予想され、さらに充実させていくことが望まれる。 ◇また、積極的な報道発表・Twitterなどによる情報発信力の強化は、博物館への注目と利用を増加させることにつながり、今後さらに充実させていく必要がある。								